

第2号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）  
事業計画（変更計画）書

平成25年 6月 6日

1 実施主体

(1) NPO法人等が申請する場合

NPO法人等 (実施主体)	種別及び名称	特定非営利活動法人 おぢや元気プロジェクト		
	住所	新潟県小千谷市本町1丁目4番16号		
NPO法人等 (連携先)	種別及び名称	一般社団法人 いちばん星南 相馬プロジェクト	担当者名	星 巖
	住所	福島県南相馬市原町区金沢字追合 116番地	電話番号	0244-26-9461

(2) 協議体が申請する場合

協議体の名称			
代表構成員の団体名 及び代表者職氏名			
構 成 団 体	都道府県・市区町 村名及び部課名	事業における 役割	
	民間非営利組 織の種別・名称		事業における 役割
	住所		電話番号

2 事業概要

事業名	「心の駅」プロジェクト
総事業費	1,419,000 円（うち希望補助金額1,272,000 円）
事業の実施期間	平成25年7月1日から平成25年3月31日まで

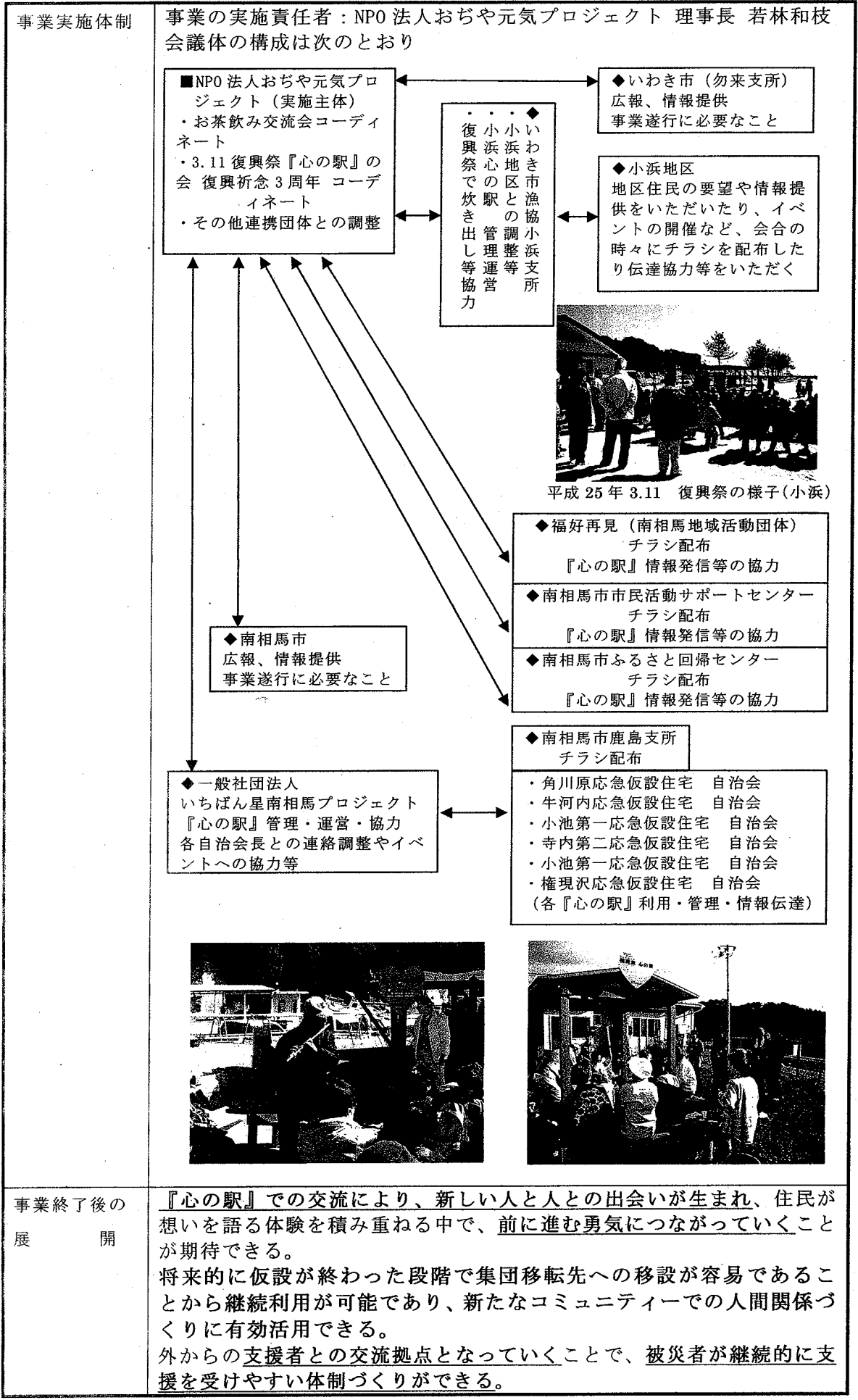
注：補助対象期間は補助金の交付決定日からとなります。

3 事業計画

地域における 課題と事業の 目的	<p>地域課題、地域社会にとっての必要性（ニーズ）及びその確認方法、重要性、この事業により期待できる成果、地域住民への効果等がわかるように記載してください。</p> <p><u>福島県内では被災した市民が仮設住宅や借り上げ住宅での生活になり、それぞれが「孤立」しやすい状態にある。ストレスを抱えて、気づかぬうちに、うつ状態に陥ることもある。最悪、自殺というケースも起こりうる状況である。避難生活が長期化し、家族や仕事や健康問題など、悩みも個人格差が広がってきており、益々支援が必要となっ</u> <u>てきています。そこで、これまで福島県内の浜通りに設置した「心の</u></p>
------------------------	--

	<p>駅」のメンテナンスと、地域住民との交流事業を企画し失われつつあるコミュニティーを守り、「心のケア」や「孤立防止」に役立ててまいります。また、今被災者が抱える課題を拾い上げ、団体や企業・行政との協働により解決に貢献する人材の育成を図り、多様な人々との交流を促進し、福島県が生き活きと発展していくことを願い継続してまいります。</p>
<p>事業の目標</p>	<p>昨年までにいわき市と南相馬市の7ヶ所に設置した『心の駅』を通じて被災地域住民の現状を多くの方々に知って頂き、『心の駅』での交流から避難生活での精神的な閉塞感を和らげ、少しでも外に出て心を開放し、また外部の支援者からの支援を受けやすい環境にすることで「心のケア」や「孤立防止」につなげていきたい。各地域の復興に向かって前向きに取り組んでいる団体などとの交流も促進され、様々な支援を受けやすい体制づくりに繋げていく。</p> <p>また、いわき市小浜海岸に於いて地域住民からの要望を受け平成24年3月11日、平成25年3月11日に2年に渡り、復興祭を開催させていただきました。この地域住民はバラバラに避難生活をしており、本当は自分たちで復興祭をやりたいが、まだ出来ないので、お願いしたいという要望を受けており、3年目の平成26年3月に復興祭を開催いたします。</p> <p>復興祭や交流会などの開催が、避難生活を余儀なくされている地域の方々にとって、震災前のなつかしいコミュニティー再生への希望が生まれ、再会の楽しみになっております。被災から3年目を迎え外からの支援が激減する中で、被災者のみなさんの生活には大きな変化は無く、不便な生活が続いており、それぞれが「孤立」した状態です。先行きの見えない不安な状態が続き、ストレスを抱えています。被災者の方々の話に耳を傾けることで、被災者の方々のストレスの軽減につながれば良いという、願いを持って交流事業を行います。私たちが外部の人間であることから、被災者の方も話しやすく、今までのつながりから、「忘れられていないんだ」という心の支えにもなっていると感じております。当法人では、被災地の現状の語り部となり、震災の風化を防ぐ役割も果たしたいと考えております。</p> <p>■『心の駅』交流事業を各開催する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県内の『心の駅』でお茶飲み交流会などを7ヶ所で開催 (いわき市1回・南相馬市6回)</li> <li>・3.11復興祭開催(復興交流会1回)</li> </ul> <p>■『心の駅』の利用者数を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわき市小浜『心の駅』利用者数昨年1000人を1500人以上に増やす</li> <li>・南相馬市『心の駅』昨年1000人を6ヶ所×1ヶ月100人×12ヶ月=1200人以上に増やす</li> </ul> <p>■『心の駅』の修理修繕を地域住民と協働する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7ヶ所の心の駅 住民参加人数 1ヶ所約10人×7ヶ所=約70名</li> </ul>

<p>事業内容</p>	<p>事業の内容、実施時期、実施場所（会場）、参集範囲及び参加予定人数等を具体的に記載してください。事業内容が複数に分かれる場合は、事業ごとに記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆『心の駅』の交流会企画・調整（7月～12月）</li> <li>◆『心の駅』のメンテナンス7ヶ所（7月～H26.3月）</li> <li>◆『心の駅』の利用状況情報を自治体等に届ける（7月～12月）</li> <li>◆『心の駅』で「お茶飲み交流会」を行う（6ヶ所）（7月～12月） 各6ヶ所の『心の駅』を会場に開催する <ul style="list-style-type: none"> <li>・①角川原応急仮設住宅 『心の駅』 参加者30人</li> <li>・②牛河内応急仮設住宅 『心の駅』 参加者30人</li> <li>・③小池第一応急仮設住宅 『心の駅』 参加者30人</li> <li>・④寺内第二応急仮設住宅 『心の駅』 参加者30人</li> <li>・⑤小池第三応急仮設住宅 『心の駅』 参加者30人</li> <li>・⑥権現沢応急仮設住宅 『心の駅』 参加者30人</li> </ul> </li> <li>◆3.11復興祭の開催3月11日 150人（いわき市小浜海岸『心の駅』）</li> <li>◆『心の駅』交流会・復興祭のチラシ作成配布（7月～H26.3月）</li> <li>◆報告書作成2月～3月</li> </ul>
<p>見込まれる成果</p>	<p>1. 本県の復興支援・被災者支援の観点</p> <p>事業によって見込まれる成果について、直接的な効果と波及効果の観点の2つの観点で記載してください。被災者支援の場合は、特に、本事業により支援を受けた被災者の延べ人数を記載してください。</p> <p>直接的…孤立しがちな被災者が「心の駅」で何気ない会話をして、ストレスを発散することができる。仮設や借り上げ住宅の狭い空間内に閉じこもるのを防いで、開放的な空間でほっと寛ぐ機会を創出する。 「お茶のみ交流会」「復興祭」の開催で、外部からの支援者との交流を図り、疎遠になりがちな人間関係をつないでコミュニティを守る。</p> <p>波及効果…「心の駅」の快適さを実感した人が、周りの人を「お茶のみ」に誘うことで、被災者同志が知り合い、会話できる関係性を育み、小さな助け合いを行うことができる。行政や区長さんだけに頼るのではなく、自分たちの力で心のケアに努めることができる。</p>
<p>取組実施主体の運営力強化の観点</p>	<p>取組内容により、取組実施主体においてどのように運営力強化が図られるのか記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営主体は新潟県内に事務局を置いているが、本事業を通じて、福島県内のNPOや民間団体、地域住民と連携することで、運営の強化を図る。ボランティアや支援団体が減っていく中で、外部団体として力を注いでいきたい。</li> <li>・中越地震と中越沖地震からの復興支援の経験を生かして、小さな取組ではあるけれど、継続をしていく。継続することで、被災地のキーマンと確実につながり、信頼と関係性を築いてキーマンを元気にしていく。そのキーマンが周りの人を元気にしていく。復興への前向きな力や、やる気の醸成を行う中で事業の協力者が増えていくことで、運営が強化され、活動を潤滑に進めていくことが出来る。</li> </ul>
<p>事業スケジュール</p>	<p>いつ、どのような活動を行うのか、事業の進め方、段取りがわかるように記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『心の駅』交流会企画・調整。7月～12月</li> <li>・『心の駅』のメンテナンス7ヶ所7月～H26.3月</li> <li>・『心の駅』の利用状況情報を行政等に届ける12月</li> <li>・『心の駅』で「お茶飲み交流会」を行う（6ヶ所）7月～12月</li> <li>・3.11復興祭の開催3月11日（いわき市小浜海岸『心の駅』）</li> <li>・『心の駅』のチラシ作成配布7月～12月</li> <li>・報告書作成2月～3月</li> </ul>



事業の先進性・普及性	<p>どのような先進性を有するか、どのようにして他のモデルとなるのかを記載してください。</p> <p>『心の駅』を介して小さなイベントを企画することが可能であり、住民の「孤立防止」や「心のケア」に有効であり、今後より多くの地域への普及が望まれます。</p> <p><u>東屋のような形態で経済的にもコストが抑えられ、比較的簡単に作れることから、被災地のどこにでも作ることが可能。</u></p>
特記事項	<p>特に説明しておきたい事項、アピールポイント等ありましたら記載してください。</p> <p>・『心の駅』は仮設の集会場と違い、オープン性が高いため、利用者が固定しないため、様々な人々との交流を可能にする。気軽にコミュニケーションがとれるツールであり、「心のケア」に有効である。</p>

※用紙が足りない場合は、適宜追加してください。

※地域社会にとっての必要性（ニーズ）について確認できる資料（新聞の切り抜きやアンケート結果等）がある場合は、A4用紙1枚（両面可）に限り添付できます。

第3号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）  
収支予算書

申請者名 NPO 法人おぢや元気プロジェクト

【収入の部】

（単位：千円）

区 分	平成 年度 予 算 額	明 細
ふるさと・きずな維持・再生 支援事業補助金	1,272	
自己資金（負担者名）	147	NPO 法人おぢや元気プロジェクト
	72	心の駅交流会費用@400円×30名×6回=72,000円
	75	H26.3.11復興祭@500円×150名=75,000円
事業収入		
その他収入		
収入合計	1,419	

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成 年度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	464	心の駅交流会人件費@8,000円×4名×2日×5回=320,000円 H26.3.11復興祭人件費@8,000円×6名×3日=144,000円
報償費	0	
旅費	274	■心の駅交流事業 高速代小千谷⇄二本松 10,400円×5回=52,000円 宿泊代@6,500円×4名×5回=130,000円 ■H26.3.11復興祭（いわき市・南相馬市） 高速代小千谷⇄いわき勿来⇄二本松 14,000円 宿泊代@6,500円×6名×2泊=78,000円
需用費	567	
消耗品費	347	・心の駅交流会費用@400円×30人×6回=72,000円 （自己負担） ・H26.3.11復興祭費用@500円×150名=75,000円（自己負担） ・プリンターインク・コピー用紙・文具・他 100,000円 ・心の駅メンテナンス費用 100,000円（ペンキ・木材・その他）
燃料費	60	ガソリン代小千谷⇄福島県 10,000円×6回=60,000円

印刷製本費	160	カラーチラシ@40円×2,000部=80,000円(心の駅交流会) カラーチラシ@40円×2,000部=80,000円(H26.3.11復興祭)
役務費	34	
通信運搬費	16	郵送料@80円×200枚=16,000円
手数料		
保険料	18	@3,000円×6回=18,000円
使用料及び賃借料	80	レンタカー代(ボックスバン)@8,000円×10日=80,000円
委託料		
支出合計	1,419	

- 注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。
- 注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。
- 注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の使途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、使途の区分が分かる資料を添付すること。

